

## 世界の諸地域 オセアニア州 オーストラリアの移民政策と多文化社会の形成

群馬県高崎市立高松中学校 上原伸吾

### 1 はじめに

オーストラリアは、日本人や生徒にとって身近な国家であるようだが実はあまり知られていないことが多いといえるであろう。とくに生徒はオリンピックやサッカーワールドカップの参加、オージービーフ、カンガルーやコアラなどの動物、ゴールドコースト、エアーズロックなど代表的なイメージと断片的な観光情報しか知らないのが現実であろう。

そこで、本単元ではオセアニア州について自然環境・産業・歴史的背景・日本とのつながりなどを大観し、興味・関心を高めていく。その後、とくにオーストラリアの歴史的背景と現在の移民政策、多文化主義、アジア太平洋地域とのつながりについて統計資料を有効に活用し、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を高める。地理的な技能を習得させながら、移民政策による多文化社会の形成にいたった過程をまとめていく。

### 2 指導計画

第1時と第2時については、オーストラリアについて生徒の興味・関心を高めるための導入を紹介したい。また、第3時については、導入からの展開事例も紹介する。

時間	過程	学習活動・内容
1	つかむ	オセアニア州を大観する
2	追究する	オーストラリアの産業の特色 オーストラリアと日本の結びつき
3		オーストラリアの歴史、移民と多文化社会の形成【言語活動】 第3時の指導案はp.13で紹介する。
4	まとめる	オーストラリアのまとめ (はがき新聞)

### 3 授業計画のくふう

(1) なじみのないオセアニア州の授業導入や興味づけのくふう

①イギリスに由来する地名 第1時 導入

発問：地図帳p.65オセアニア州から、イギリスに関係する地名を見つけよう。

グレートビクトリア砂漠、ビクトリア州、ニューサウスウェールズ州などがある。地名からイギリスの植民地であった歴史やイギリ

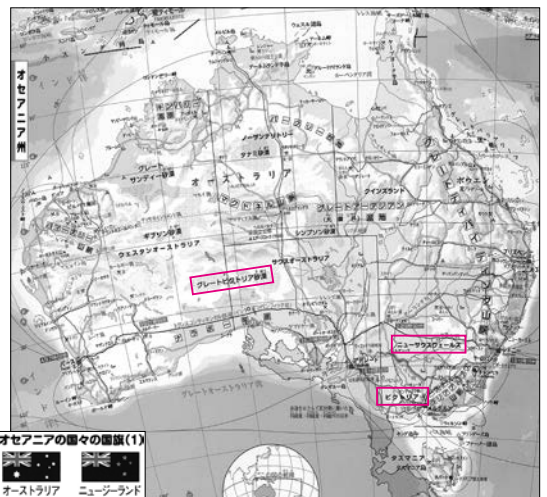


図1 『中学校社会科地図』 p.65

スとの関係が深いことを理解させたい。また、『中学校社会科地図』（以下、地図帳）p.65やp.69からユニオンジャックの国旗を見つけさせることは生徒の興味をひき、イギリスとの関係がわかりやすく理解できる(図1)。また、帝国書院のHPに掲載されているメルボルンの写真(写真1)を提示し、イギリスとの関係に気づかせることも可能であろう。



写真1 帝国書院HP メルボルン フリンダースストリート駅

②日本のエネルギー資源・鉱産資源の輸入

**第2時 導入**

発問：日本は資源を外国に依存しているが、オーストラリアからどんなエネルギー資源や鉱産資源を輸入し、どれくらいの割合を依存しているのだろうか。統計資料を使ってまとめよう。

地図帳p.135「③日本のエネルギー資源の輸入」「④日本のおもな鉱産資源の輸入」(図2)を用いてこのように発問する。石炭や鉄鉱石は既習事項であるため、すぐに解答があるだろう。しかし、その割合となるとなかなかイメージできない。ここでは、日本のオーストラリアへの依存度の高さを確認することから、日本とのつながりがとても深いことを理解させたい。石炭、鉄鉱石については全体の約6割を、天然ガス、銅、アルミニウムについては1～2割をオーストラリアから輸入している。このように日本はオーストラリアに大きく資源を依存しており、わが国にとって欠かせない国といえることを統計資料か

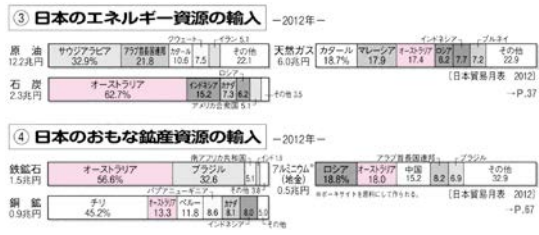


図2 『中学校社会科地図』 p.135

ら説明する。

③コモンウェルスゲームズ **第3時 導入**

発問：次の競技は何のスポーツの大会だろうか。

コモンウェルスゲームズのロゴや写真を見せながらこのように発問し、生徒の興味をひく。インターネットなどを活用し、コモンウェルスゲームズとオリンピックの参加国や競技種目を確認させたい。この大会は、イギリス連邦に属する国やかつてイギリスの植民地であった国などが参加して4年ごとに行われるスポーツの大会である。日本人にはなじみがない大会だが、7人制ラグビーのようにオリンピックより前に種目となっているものがある。120年以上の歴史と53の国や地域から参加があることから伝統や人気がある大会であるといえる。ここからオーストラリアとイギリスの関係が強いことに気づかせたい。

(2) 多文化社会形成にいたった過程について言語活動を取り入れる **第3時 展開**

①歴史的な背景

多文化社会の形成には多文化主義(マルチカルチュラリズム)が影響しており、1970年代以降のオーストラリアやカナダがその代表といえる。多文化主義は、イギリス植民地時代に根源をもち、国民・国家形成のための政策である。このため、ただ単に地理的に近いからという理由でオセアニアや東・東南アジアからの移民が増加しているのではなく、政治的な政策が大きく影響しているのである。とくに、オーストラリアは白豪主義の時代

(1901年の移住制限法制定から1973年の移民法までの政策)を経て人種差別的な政策から多文化主義へと転換を図り、移民を多く受け入れていることから、移民の受け入れという点において先進国の中でも成功している例といえる。

授業では、白豪主義に深入りする必要はないが、年表などから政治的な政策の転換からイギリス・アイルランド、その他のヨーロッパの移民が減少していることにつなげたい。

### ②多文化社会の現状

現在の移民は、技術独立移住査証(若く教養、技能、英語力があり仕事を簡単に見つけられる人)が中心のポイント制である。年齢、英語力、学位などを段階に分け点数化している。移民の出身国は、1位:インド約4万人、2位:中国約2.8万人、3位:イギリス約2万人、4位:フィリピン約1万人の順に多い(2012年度、大和総研資料より)。さらに目をひくのは、2014年10月に海外の富裕層をよび込むために移民制度の改革を発表し、1年間に1500万オーストラリアドル(約14億円)以上をオーストラリアに投資すれば、優先的に永住権が与えられるとしたことである。これはとくに中国をねらったものである。

授業では、APECの加盟国を確認させる。APECがオーストラリアの提案で発足した組織であること、GDPの合計では世界に占める割合の57%になり、経済的な結びつきや貿易の促進が期待されることから、アジア、オセアニア地域からの移民が増えていることをとらえさせる(表1、図3)。

### ③言語活動へとつなげる

**第3時**の指導案(p.13)より、課題1「オーストラリアの移民がどのように変化したか調べよう。」を設定し、『社会科 中学生の地理』(以下、教科書)p.107「⑦オーストラリ

表1 APEC加盟国・地域の名目GDP合計と世界に占める割合

単位:10億USD

国名・地域名	GDP	国名・地域名	GDP
アメリカ合衆国	16,768.05	シンガポール	297.94
中国	9,469.12	チリ	276.97
日本	4,898.53	ホンコン	274.03
ロシア	2,096.77	フィリピン	272.07
カナダ	1,826.77	ペルー	202.42
オーストラリア	1,505.92	ニュージーランド	181.57
韓国	1,304.47	ベトナム	170.57
メキシコ	1,260.92	ブルネイ	16.11
インドネシア	870.28	バプアニューギニア	15.41
台湾	489.09	合計	42,897.41
タイ	387.25	世界の合計(188か国)	74,699.25
マレーシア	313.16	(APEC / 世界)	(57.4%)

<出典>世界経済のネタ帳 <http://ecodb.net/ranking/group/XM/imf/ngdppd.html>

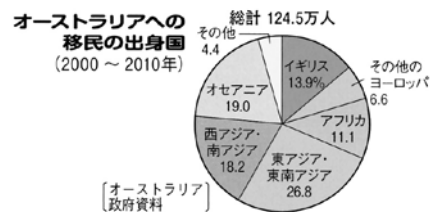


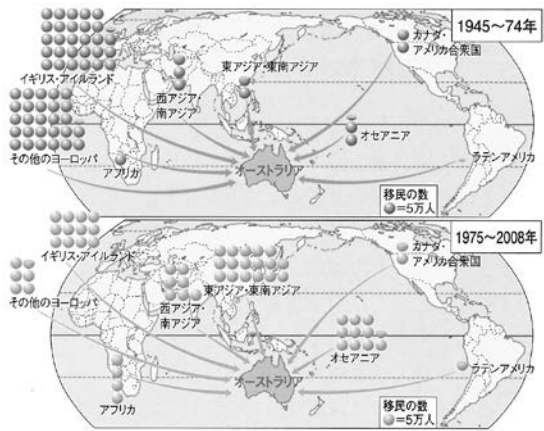
図3 『中学校社会科地図』 p.67⑤

アに移住する人々の出身地の変化」(図4)を活用して移民がどのように変化したかとらえさせたい。1945～74年はイギリス・アイルランドやイギリス以外のヨーロッパからの移民が、1975～2008年にはオセアニア、東・東南アジアからの移民が多くなっていることに気づかせたい。資料を活用することは、自分の考えをまとめるための根拠となる。生徒は漠然と多文化社会の形成を理解するのではなく、統計資料を根拠に課題にそくしてまとめ上げることができる。

次に、課題2「なぜ、アジアやオセアニア地域との結びつきが強まったのか説明しよう。」を設定し、各自の考えや意見を交流し説明や伝え合う活動を取り入れ、学び合う。地理的な条件、政治的な条件、経済的な条件などを通して理解を深めたり、新たな発見をしたりすることができる。説明や伝え合う活動により、双方向のコミュニケーションとなる。

**第4時**では、再び自分の考えをまとめる

ことで、ふり返りを行う。思考の過程や課題追究の結果を整理、価値づけを図る。まとめ方はさまざまあるが、今回は「はがき新聞」にまとめる。これは、PISA型読解力を高めるために公益財団法人 理想教育財団\*が支援・助成しているものである。はがきサイズでスペースが限られているため、主題を一〜二つにまとめるのに適しており、1時間程度で仕上げることができる。省スペースなので、掲示も容易という利点がある。



**(3) 言語活動を取り入れた指導案 第3時**

図4 『社会科 中学生の地理』 p.107 「⑦オーストラリアに移住する人々の出身地の変化」(オーストラリア政府資料)

過程	学習活動	時間	支援・指導上の留意点	評価の観点・方法
つかむ	1. オーストラリアがイギリスとの結びつきが強いことを理解する。 ・コモンウェルスゲームズを取り上げる。	5分	・前時までに学習したイギリスに由来する地名やコモンウェルスゲームズからイギリスとの結びつきが強いことを確認する。 ・現在は複数の民族が生活していることを予想する。	
追究する	2. 課題1 「オーストラリアの移民がどのように変化してきたか調べよう。」 (個別) →学級で確認(一斉) ・教科書p.107⑦より考察	10分	・1945～74年と1975～2008年を比較して移民がどのように変化してきたとらえさせる。 ・移民が多い地域の1～3位とその数を表にまとめることで変化をとらえる。 ・資料を比較して、自分なりのことばでその変化のようすをまとめられるように支援する。	[技能] 統計資料を活用してオーストラリアの移民の変化を読み取ることができる
まとめる	3. 課題2 「なぜ、アジアやオセアニア地域との結びつきが強まったのか説明しよう。」 (班別) ・地図帳p.67「⑥外国との結びつき」 ・教科書p.106「⑤オーストラリアの歩み」 ・APEC各国GDP額 ・『アドバンス 中学地理資料』p.93「⑨オーストラリアの貿易相手国」 などから考察 →多文化社会の形成へ	25分	・地理的条件 近隣の国々(アジアやオセアニア地域)との関係が強まる。それでもイギリスとの関係は深い。など ・政治的条件 白豪主義→多文化主義へ ・経済的条件 APECを例に、人口やGDPの大きさから貿易への期待が高まっていることをとらえる。 これらに関する資料を提示し、少人数で学び合う。 ・学び合いにより自分の考えや集団の考えを交流させながら発展させていく。	[思考・判断・表現] オーストラリアがイギリスからアジア諸国やオセアニア地域とのつながりが強まったこととその背景を説明することができる。
	4. 課題2のまとめを発表する。 (一斉)	10分	・学級全体で学び合い、交流した結果について共有する。	

**4 まとめ**

思考力・判断力・表現力を育成するためには、どのような資料をどのタイミングで提示するかが重要である。今回は、教科書など身近にある資料の活用について例示させていた

だいた。オーストラリアの移民政策については、人口減少社会に突入した日本にとっても参考にできる政策の一つである。日本も移民については今後避けては通れない議論となり、公民分野においても活用が期待できる分野・内容といえる。

\*公益財団法人 理想教育財団HP <http://www.riso-efor.jp>